

ルーマニアにおけるアドルフォ・サルコリの演奏活動

Adolfo Sarcoli's Singing Activities in Romania

直江学美
Manami NAOE

〈要旨〉

筆者はアドルフォ・サルコリの演奏活動を明らかにすべく調査を行ってきた。これまで、サルコリが日本で行った演奏活動の一部を「日本の演奏会プログラムより見た西洋音楽受容の一考察」(直江学美 2010)、「日本におけるベル・カントの父、アドルフォ・サルコリの生涯」(直江 2011)にまとめた。来日以前の活動については「アドルフォ・サルコリの演奏活動について—海外を中心に—」(直江 2012)、「フィリピンにおけるアドルフォ・サルコリの演奏活動」(直江 2014)を執筆したものの、まだその多くは調査されていない。人生の後半を日本で過ごし、日本で多くの音楽家を育てたサルコリの生涯と活動を明らかにすることは、日本における西洋音楽受容の過程を検証する上で不可欠であると考えられる。

筆者は、2014年8月に、サルコリが演奏活動を行う為に何度か滞在していたとされるルーマニアで、サルコリの演奏活動を報じた記事を調査した。本研究でその結果を報告する。

〈キーワード〉

アドルフォ・サルコリ、西洋音楽受容、イタリアオペラ

1 はじめに

本稿は、イタリア人テノール歌手、アドルフォ・サルコリ(1867-1936)のルーマニアにおける演奏活動をまとめたものである。サルコリは、日本で三浦環(1884-1946)、関屋敏子(1904-1941)、原信子(1893-1979)など、日本の音楽界を牽引した人物を育てた。サルコリが日本の音楽界に与えた影響は極めて大きい。

ルーマニアで調査を行うことにしたきっかけは、筆者が2014年2月、フィリピンで行った調査にある。

インターネットサイト『La voce antica』⁽¹⁾に、サルコリがフィリピンに演奏旅行に訪れたことが記されている。その内容を元に、フィリピン国立図書館と、アテネオ・デ・マニラ大学附属図書館で調査を行った結果、サルコリがItalian Opera Companyの一員としてフィリピンを訪れていたこと、Italian Opera Companyは1910年12月11日から1911年1月25日の間に11演目のオペラを上演し、サルコリはそのうち6演目に出演、いずれも主役、もしくは主役級の役を演じていたことを見つけた。これまで、サルコリのレポーターははっきりとしなかったが、フィリピンでの調査によりレポーターの一部を明らかにする事が出来た。フィリピンでの調査とサルコリが長い期間住んでいたイタリアや日本での調査を比べると、フィリピンはサルコ

リの滞在が短期間である事、また、海外のオペラ団の演奏会ということもあり、現地の新聞や音楽雑誌にまとめて取り上げられていた。そのため、より数多くの資料の発見につながった。この結果を受け筆者は2014年8月に、サルコリが短期滞在したルーマニアでも調査を行う事を決めた。『La voce antica』によると、サルコリがルーマニアを訪れたのは、1903年1月から2月、1904年11月、1906年10月、12月、1910年10月となっており、その情報を手がかりに、当時の新聞を中心に検索を行った。

2 ルーマニアでの演奏活動調査

2-1 ルーマニアの図書館事情

ルーマニアでは第二次世界大戦後に検閲が行われ、全蔵書が一般に公開されたのは1989年の革命以降である。また、共産党時代に全国で建設された図書館は5館以下、1989年の革命時に、唯一の国立図書館であったブカレスト大学中央図書館が破壊され、資料も消失するなど、図書館事情は極めて悪い。著者は、国立図書館とアカデミア図書館で調査を行ったが、資料検索は非常に難航した。

2-2 Adevărul紙とUniversal紙

ルーマニアの図書館でサルコリが活躍した当時の新聞を

検索した結果、音楽に関する記事がみられたのは Adevărul紙と Universal紙であった。よって、本研究では、この2紙の調査を中心に行った。

サルコリの名前が多くみられたのは、1888年に創刊されたルーマニアの新聞 Adevărul紙であった。サルコリが滞在したとされる1903年1月から2月、1904年11月、1906年10月、12月、1910年10月のうち、1910年以外の時期に関して、Adevărul紙にサルコリの名前を見つけた。Adevărul紙上に見られるサルコリに関する記事の一覧を巻末にまとめる(表1)。1910年に関しては、Universal紙も参考にした(表2)。

2-2 Adevărul紙に記載されたサルコリの演奏活動

サルコリが記載された記事の2つを次に訳す。

「多大な功績と賞賛は、ロドルフォ役のサルコリによってもたらされた。サルコリは、リゴレット、ジョコンダ、ボエームなどを歌う。サルコリは、プッチーニも歌う。歌声は、温かくつつみこむようだ。オペラでは、ダルクレ嬢 (Hariclea Darclée : 1860-1939) と共演する機会が多い。」(“Adevărul” 1903年1月22日 3頁)

「オペラ前夜祭は大成功。プッチーニのボエームにおいて、今シーズン最初の成功。(…) テノールサルコリは数日でラダメスの役を準備し、本物の“力作”を演じ、衝撃的で倦怠感のある役柄を、豊かな表現力で、かつ正確に、リトヴィーネ嬢 (Felja Litvinne : 1860-1936) と表現した。

昨夜の役柄はメタリックな声で高く評価でき、また、その輝きを示した。ジョコンダにおいて、サルコリ氏のエンツォ役は非常に素晴らしいものがあった。

(アイダでは) 大司祭ランフィス、ロッシの低音や、ドロレス夫人の正確さ、アレクシウの王も非常に良く、時には熱くアムネリスを演じた。オーケストラとその特別な楽器は昨夜火を噴いた。合唱もうまくいった。第二幕のグランドフィナーレの際には、オーケストラ指揮者、モランツォーニ氏 (Roberto Moranzoni : 1880-1959) は暖かい拍手喝采を受けた。」(“Adevărul” 1906年11月17日 3頁)

記事はサルコリの声に対する賞賛が並んでおり、特に、1903年1月22日の記事には、オペラの成功がサルコリの演奏によってもたらされたと書かれている。記事の中で共演者として名前が挙がったダルクレ (Hariclea Darclée : 1860-1939) リトヴィーネ (Felja Litvinne : 1860-1936) 指揮者モランツォーニ (Roberto Moranzoni : 1880-1959) に注目する。

[註]記事中は、苗字のみの記載であるが、他の記事でフルネームが書かれていたため名前を判断し、補筆した。() は筆者の補筆。

2-3 サルコリの共演者たち

Adevărul紙の記事によって明らかになった共演者の経歴は次の通りである。

ダルクレ (Hariclea Darclée : 1860-1939)

ルーマニアのソプラノオペラ歌手。彼女の三十年にわたるキャリアは、世界で最も有名なオペラ歌手の一人とみなされている。(…) 1890年、彼女はミラノのスカラ座で、マスネのオペラ〈ル・シッド〉のシメーヌ役でデビュー、大成功をおさめ、瞬間にイタリア各地の劇場と契約が結ばれた。スカラ座での世界初演、〈ワリー〉のタイトルロールをはじめ、ローマ、ペールージャなどイタリア各地、そしてモスクワなど海外でも多くのタイトルロールを歌った⁽²⁾。

リトヴィーネ (Felja Litvinne : 1860-1936)

サルコリと共演の一年後、1907年にスカラ座でトスカニーニの指揮のもと、ワーグナーのオペラ〈神々の黄昏〉に出演している⁽³⁾。

指揮者モランツォーニ (Roberto Moranzoni : 1880-1959)

1902-1903年にアクイラでのオペラ劇場、1903年にミラノのダル・ヴェルメ劇場、そして、1906年からブダペストの国立オペラ劇場で活躍した。

1910年から、トリノのキャレッラ劇場で、プッチーニの〈蝶々夫人〉ヴェルディの〈アイダ〉ワーグナーの〈ローエングリン〉を、コッチャ・ディ・ノヴァーラ劇場では、新しい〈蝶々夫人〉を振った。(…) 1910年、ボストンでプッチーニの〈トスカ〉ドニゼッティ〈ランメルモールのルチア〉で演出デビュー。後6年間、1917年まで〈アイダ〉14回、〈トスカ〉14回、〈パリアッチ〉を13回など数多くの演出をした。その後、アメリカ各地からオファーを受けたが、結局1917年にメトロポリタン歌劇場のオファーを受け入れた。メトロポリタン歌劇場では1917年〈アイダ〉でデビュー後、多くの成功をおさめ1924年までの間に〈蝶々夫人〉47回、〈トスカ〉46回、〈アイダ〉38回、〈カヴァレリア・ルスティカーナ〉36回、〈パリアッチ〉28回公演した。1918年12月14日には、メトロポリタン歌劇場でプッチーニの〈三部作〉を世界初演している⁽⁴⁾。

サルコリと「共演する機会が多い」(“Adevărul” 1903年1月22日3頁) とされた、ルーマニア出身のダルクレ嬢は、ミラノのスカラ座をはじめ、イタリア各地で歌う歌手であり、サルコリが1906年に共演したりトヴィーネも、共演の1年後の1907年にトスカニーニの指揮のもとスカラ座でオペラに出演している。指揮者モランツォーニもこの後成功をおさめ、アメリカで活躍、メトロポリタン歌劇場と契約しており、プッチーニの三部作の初演も行っている人物である事が分かった。

共演者はサルコリの「オペラ歌手」としての力量を推測

するために重要な手がかりである。1903年と1906年にサルコリの共演者として名前が明らかになった3人の経歴をみると、共演者は地方の劇場に留まらず、スカラ座やメトロポリタン歌劇場といった世界的な劇場で演奏する事が出来た人物である。

これまでAdevărul紙の記事を検索しまとめてきたが、1910年のAdevărul紙には、サルコリの名前は見つける事が出来なかった。しかし、同じ時期イタリアのオペラ団体がルーマニアで演奏している広告記事をUniversal紙に見つけた(図1)。広告記事を元に1910年10月22日から11月28日までUniversal紙上に掲載されていたイタリアのオペラ団体の演奏活動を巻末にまとめる(表2)。



(図1: 1910.11.25 Universal 5面「Leon Popescu劇場・イタリアオペラ」広告記事)

イタリアオペラ団体は、1910年10月23日オペラ〈アイダ〉を皮切りに、同年11月28日までのうち、33日、延べ40のオペラを上演した。演目は〈アイダ〉2回、〈セヴィリアの理髪師〉3回、〈トスカ〉4回、〈椿姫〉6回、〈エルナーニ〉2回、〈マリア・デイ・ロアン〉1回、〈リゴレット〉2回、〈カヴァレリア・ルスティカーナ〉2回、〈パリアッチ〉3回、〈仮面舞踏会〉3回、〈ラクメ〉3回、〈トロヴァトーレ〉1回、〈ルチア〉2回、〈ノルマ〉1回、〈カルメン〉3回、〈ボエーム〉2回であった。

Universal紙の広告記事(図1)に「Yvonne de Tréville」とみられるように、歌手の名前が掲載されている日がある。公演期間中に名前が記載された歌手は、Mattia Battistini, Bianchini Cappeli, Yvonne de Tréville, Cécile Thévenet である。

この中の、マッティア・バッティスティーニはインターネット情報によると「19世紀末から20世紀初頭にかけての最も偉大なイタリアのバリトン。ローマに生まれ、1878年にローマでのドニゼッティ〈ファヴォリータ〉のアルフォンソでデビュー。若い頃は南米でも歌っているものの、大成してからはヨーロッパだけで歌い、各地で絶賛された。引退は1927年で、およそ半世紀歌い続けた。」という経歴の歌手である⁵⁾。

バッティスティーニはSP盤レコードの吹き込みもしており、〈UN BALLO IN MASCHERA〉(イタリア盤IT GRA 52146)、〈LA TRAVIATA〉Pura siccome un angelo/Di Provenza il mar, il suol chi dal cor ti cancello?(イギリス盤GB HMV D.B.201)、Urna fatale del mio destino/Eri tu che macchiavi quell' anima (イギリス盤GB HMV D.B.738)、VITTORIA, VITTORIA!/LA MANTILLA (イギリス盤GB HMV D.A.127) などがある。

広告記事からは、1910年10月から11月にルーマニアで演奏していたイタリアオペラ団体は、バッティスティーニのように当時活躍していた歌手が参加していること、また、16もの演目を上演したことから多くの公演を行える団体であったことが分かる。

Universal紙上に掲載された全40公演の広告の多くは演目の記載が主であり、演奏家の名前は一部しか記載がなく、サルコリの名前も確認出来なかったが、サルコリがルーマニアに滞在したとされる時期と、このイタリアオペラ団体の滞在時期が同じである事、サルコリがルーマニアで演奏されたとされる「カヴァレリア・ルスティカーナ」も上演していた事を考えると、この団体の中にサルコリがいた可能性が考えられる。今後も調査を続けたい。

3 まとめ

本研究では、サルコリが来日前に滞在していたルーマニアにおけるサルコリの演奏活動をまとめ、考察をおこなった。当時の新聞から、1903年、1904年、1906年にサルコリが演奏したという記事を見つけることが出来、その記事により、オペラの成功をサルコリがもたらしたことを明らかに出来た。そして、1910年はサルコリがいた可能性のあるオペラ団体の演目を一覧にまとめた。

サルコリが共演していた音楽家の名前は、サルコリのオペラ歌手としての力量、そして日本にいながらにしてつながっていたであろう、世界の音楽界とのネットワークを知る上で大変重要な情報である。今回のルーマニア調査で、共演者の一部を明らかにできた。

ダルクレ(Hariclea Darclée: 1860-1939) リトヴィーネ(Felia Litvinne: 1860-1936) 指揮者モランツォーニ(Roberto Moranzoni: 1880-1959)のいずれもが、地方都

市ではなく、ミラノスカラ座やニューヨークのメトロポリタン歌劇場などでの経験を持つ、いわば世界的な活躍をしていたことが明らかになった。それら世界的な歌手と共演し、オペラの主役を演じていたサルコリは、相応の力量を持つテノール歌手であったと考えられる。

サルコリの来日時、明治44年は帝国劇場が出来たとはいえ、日本ではまだオペラを演奏する土壌が出来上がっては

いなかった。その日本に、サルコリが多くのおペラレパートリー、そして世界とつながるネットワークを持って来日したことは、日本音楽界にとって重要な出来事であったと考えて良いだろう。

[本研究は、2013-2015年文部科学省より科学研究費：若手研究B(25770040)の助成を受けたものである。]

参考文献

- (1) 直江学美 2010『日本の演奏会プログラムより見た西洋音楽受容の一考察』。(金沢星稜大学人間科学研究第4巻第1号), 2010年9月, 45-47頁
- (2) 直江学美 2011『日本におけるベル・カントの父, アドルフォ・サルコリの生涯』。(金沢星稜大学人間科学研究第4巻第2号), 2011年3月, 41-44頁。
- (3) 直江学美 2012『アドルフォ・サルコリの演奏活動について—海外を中心に—』。(金沢星稜大学人間科学研究第6巻第1号), 2012年9月, 29-34頁。
- (4) 直江学美 2014『フィリピンにおけるアドルフォ・サルコリの演奏活動—1910年末から1911年の新聞記事より—』。(金沢星稜大学人間科学研究第8巻第1号), 2014年9月, 17-22頁。
- (5) “TEATRU-MUZICA, Opera-Bohema de Puccini cu d-na Darclée”
Adevărul, 22 Jan. 1903, at 3.
- (6) “TEATRU-MUZICA, Opera italiană. Aida cu d-na Félia Litvine”
Adevărul, 17 Nov, 1906 at 3.

参考サイト

- (1) *La voce antica "Sarcoli Adolfo"*
<http://www.lavoceantica.it/Tenore/Sarcoli%20Adolfo.htm>
(2014年3月20日閲覧)
- (2) *Wikipedia "Hariclea Darclée"*
https://en.wikipedia.org/wiki/Hariclea_Darclée (2015年6月21日閲覧)
- (3) *Wikipedia "Felia Litvinne"*
(https://en.wikipedia.org/wiki/Felia_Litvinne) (2015年6月21日閲覧)
- (4) *Treccani, La cultura Italiana "Moranzoni, Roberto"*
[http://www.treccani.it/enciclopedia/roberto-moranzoni_\(Dizionario_Biografico\)](http://www.treccani.it/enciclopedia/roberto-moranzoni_(Dizionario_Biografico)) (2015年6月21日閲覧)
- (5) http://www.hmv.co.jp/artist_Bariton-Bass-Collection_000000000293860/item_マッティア・バッティステイーニ%E3%80%80アリア集第2集_3865000 (2015年6月20日閲覧)

表

(表1) “Adevărul”のサルコリに関する記事一覧 (“Adevărul” 1903年1月22日から1906年11月9日まで)

	記事見出し	小見出し	発行日	号数	面
1	TEATRU-MUZICA	Opera-Bohema de Puccini cu d-na Darclée	1903. 1. 22	不明	3
2	TEATRU-MUZICA	Opera-Carmen cu d-na Arnoldson	1904. 10. 13	不明	3
3	TEATRU-MUZICA	Opera-Manon de Puccini	1904. 11. 26	5500	
4	TEATRU-MUZICA	Opera-Carmen cu d-na Arnoldson	1904. 12. 1	5505	3
5	TEATRU-MUZICA	Teatrul National.Opera italiană Tosca de Puccini	1906. 11. 1	6178	3
6	TEATRU-MUZICA	Opera italiană.Aida cu d-na Félia Litvine	1906. 11. 17	6194	3
7	TEATRU-MUZICA	Opera italiană : Gioconda cu d-na Félia Litvine	1906. 11. 19	6196	3

(註：名詞の表記は、新聞記載の通りとした。オペラの邦題、備考の生没年は筆者の補筆)

(表2) 「Universal」のイタリアオペラ団体に関する記事、広告一覧 (“Universal”1910年10月22日より1910年11月28日まで)

公演日	演目	出演者	備考
1910. 10. 23	Aida 〈アイーダ〉	Monti Brunner, Maurini, Caronna,	
1910. 10. 24 (昼) 2:30	Barbierul din Siville 〈セヴィリアの理髪師〉	Jenny Duffan, Dammaco, Caronna, Lucenti	Jenny Duffanによる ディノーラのワルツ
1910. 10. 24 20:45	Tosca 〈トスカ〉		
1910. 10. 25	Aida 〈アイーダ〉		
1910. 10. 26	Traviata 〈椿姫〉		
1910. 10. 27	Ernani 〈エルナーニ〉	Battistini	Mattia Battistini (1856-1928) の初日
1910. 10. 28	Tosca 〈トスカ〉		
1910. 10. 29	Maria de Rohan 〈マリア デイ ロアン〉	Battistini	
1910. 10. 29	Rigoretto 〈リゴレット〉	Battistini, Sambata, Relache	
1910. 10. 30	Traviata 〈椿姫〉		
1910. 10. 31 (昼)	Tosca 〈トスカ〉		
1910. 11. 2	Barbierul din Siville 〈セヴィリアの理髪師〉	Battistini Bianchini Cappeli	Bianchini Cappeli (1873-1919) の初日
1910. 11. 3	Cavaleria Rustigan Pagliaci 〈カヴァレリア・ルスティカーナ〉 〈パリアッチ〉		
1910. 11. 4	Un ballo in Maschera 〈仮面舞踏会〉	Battistini	
1910. 11. 5	Traviata 〈椿姫〉		
1910. 11. 6	Ernani 〈エルナーニ〉	Battistini Bianchini Cappeli	
1910. 11. 7	Barbierul din Siville 〈セヴィリアの理髪師〉		
1910. 11. 8	Tosca 〈トスカ〉	Battistini	
1910. 11. 8	Un ballo in Maschera 〈仮面舞踏会〉		ガラコンサート Battistini
1910. 11. 13	Lackme 〈ラクメ〉	Yvonne de Treville	Yvonne de Treville 1881 (Galveston, TX)- 1954 (New York)
1910. 11. 14	昼: Rigoletto 〈リゴレット〉 夜: Trovatore 〈トロヴァトーレ〉		
1910. 11. 15	Traviata 〈椿姫〉	Yvonne de Treville	

公演日	演目	出演者	備考
1910. 11. 16	Cavaleria Rusticana 〈カヴァレリア ルスティカーナ〉 Pagliacci 〈パリアッチ〉	Bianchini Cappelli サントウツァ役	
1910. 11. 17	Lucia 〈ルチア〉	Yvonne de Treville	
1910. 11. 18	Norma 〈ノルマ〉	Bianchini Cappeli	
1910. 11. 19	Lackme 〈ラクメ〉	Yvonne de Treville	
1910. 11. 20	Carmen 〈カルメン〉	Cecile Thevenet	Cécile Thévenet (1872)
1910. 11. 21	昼：Traviata 〈椿姫〉 夜：Pagliacci 〈パリアッチ〉		
1910. 11. 22 (昼)	Lackme 〈ラクメ〉	Yvonne de Treville	
1910. 11. 23	Carmen 〈カルメン〉	Cécile Thévenet	
1910. 11. 24	Bohema 〈ボエーム〉		
1910. 11. 25	Traviata 〈椿姫〉	Jenny Dufau	Jenny Dufau (1878-1924)
1910. 11. 26	Lucia 〈ルチア〉	Yvonne de Treville	
1910. 11. 27	Karmen [ママ] 〈カルメン〉	Cécile Thévenet	
1910. 11. 28	昼：Un ballo in Maschera 〈仮面舞踏会〉 夜：Bohema 〈ボエーム〉	Yvonne de Treville	